

「特別の教育課程」による 日本語指導の導入状況

米本和弘（東京学芸大学）

yonemoto@u-gakugei.ac.jp

本発表の目的

- 高等学校における「特別の教育課程」による日本語指導の導入状況に関する報告
 - 実施方法・教育内容・指導体制・制度の位置付け
 - 導入の過程とその波及効果

調査方法

実施時期：2023年9月～2024年3月

調査協力校：【視察】11校 【ヒアリング】8校

依頼方法：【視察】都道府県教育委員会に協力を打診

【ヒアリング】研修参加校等に直接協力を打診

調査方法：【視察】 管理職・日本語指導担当教員等へのヒアリング

資料(科目一覧や学校要覧等)収集

日本語指導や教科等の授業参観

【ヒアリング】日本語指導の状況や支援体制等の聴取

視察調査の協力校

	所在地	枠※	課程・学科・履修制度	制度実施※※	その他の特徴
A	北海道	無	定時・専門・学年	増単・代替	教科入り込み支援
B	群馬	有	定時・普通・単位・2学期制	増単	2023年度秋学期に導入
C	茨城	有	全日・普通・学年	増単	課外の日本語指導
D	茨城	有	全日・普通・学年	実施せず	習熟度別クラス
E	東京	無	定時・普通・学年	増単	日本語指導員の派遣
F	東京	有	全日・普通・単位	実施せず	習熟度別クラス
G	神奈川	有	定時・普通・学年	実施せず	国際コース設置
H	愛知	有	全日・総合・学年	代替	教科取り出し指導
I	愛知	有	全日+定時・普通・単位	増単・代替	教科取り出し指導
J	大阪	有	定時・普通・単位・2学期制	増単・代替	教科の講座開講
K	大阪	無	定時・普通・単位・2学期制	増単・代替	21単位習得可能

※入学者選抜特別枠 ※※「特別の教育課程」の実施状況

ヒアリング調査の協力校

	所在地	枠	課程・学科・履修制度	制度実施	その他の特徴
F※	東京	有	全日・普通・単位	実施せず	習熟度別クラス
L	埼玉	無	定時・総合・単位・2学期制	実施せず	学校設定科目設置
M	神奈川	—	全日・普通・学年	実施せず	日本語取り出し授業
N	愛知	有	全日・総合・単位	実施せず	教科取り出し指導
O	愛知	無	定時・専門・学年	実施せず	課外の日本語指導
P	静岡	無	定時・普通・学年	実施せず	国語科授業の単位数増加
Q	福井	無	定時・普通・単位	実施せず	教員個人による対応
R	兵庫	無	定時・普通・学年	実施せず	2024年度から制度導入予定

※F高校は視察調査も実施

「特別の教育課程」実施状況

実施している…8校

実施していない…10校

- 入学者特別選抜枠があり, 日本語指導が必要な生徒数が多い。
- 日本語指導は日本語関連の学校設定教科・科目を開設。
- 課外の補習, 定期試験対策, クラブ活動などを実施。
- 教科指導は習熟度別クラスを実施。

「特別の教育課程」の実施要件

(東京学芸大学, 2023a, 2023b)

- 教育課程の編成と評価の実施（「個別の指導計画」, 要録への記載）
- 指導者（教員免許を有した教員）の配置
- 指導形態（在籍学級とは別教室で） など

実施校（8校）の概要

課程

- 全日制…2校
- 定時制…5校
- 全日制定時制併置…1校

学科

- 普通科…6校
- その他…2校（総合, 工業）

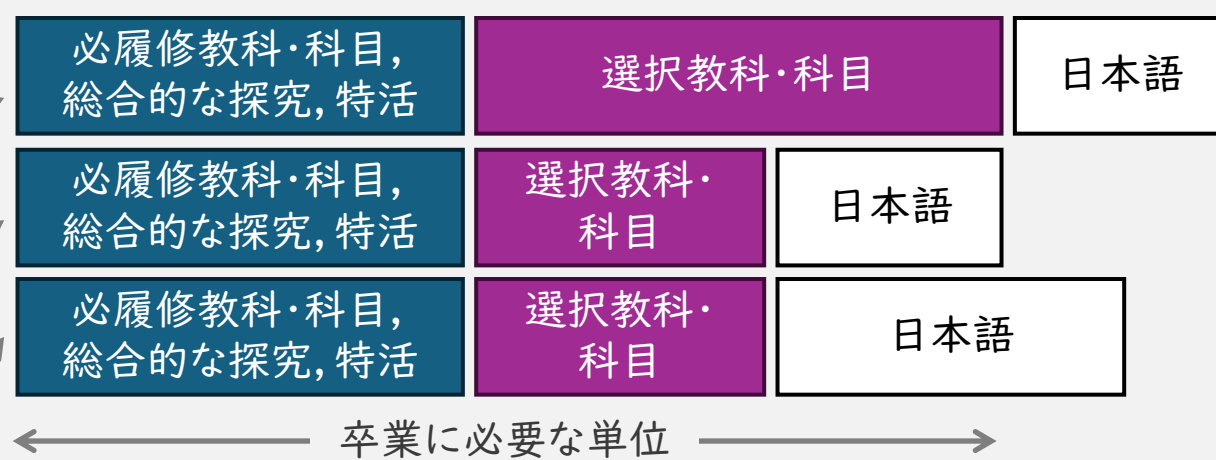
履修制度

- 学年制…4校
- 単位制…4校

入学者特別選抜

- あり…5校
- なし…3校

実施方法や時間数



増単…3校

- 全日制課程では放課後, 定時制課程では授業前後に実施。
- 週1時間(1単位)~3時間(3単位)

代替…1校

- 全日制課程の第2, 第3学年で日本語指導を実施(第1学年は放課後に補習を実施)。並行して教科の取り出し指導も実施。
- 週5時間(5単位)~9時間(9単位)

増単・代替…4校

- 授業の代替, 授業前後に実施。
- 週3時間(3単位)~週9時間(9単位)

教育内容

全高校

- 市販の教材を使用した, 学校生活に必要な基礎的な日本語文法や会話の学習, 教科学習支援を実施。

I高校

- SDGs等を題材にした課題解決型の学習を実施。

C高校・J高校

- 地域理解のためのフィールドワークやキャリア支援の一環としてのインターンシップを実施。

指導支援体制の整備・外部連携

全高校

- 管理職のリーダーシップのもと、教育課程を編成・学校内外の連携体制を整備。学校内では日本語指導教員，教科指導教員などが定期的に情報共有。

C高校・H高校

- 教育委員会・大学・NPO等と連携し，日本語指導，キャリア支援，保護者へのサポートなどを実施。

C高校・J高校

- 地域の企業等の協力を得て，日本語学習やキャリア教育を実施。

学校の特長・特色の中への位置付け

C高校

- 外国につながる生徒も地域社会の担い手であるという考えのもと、その育成を目標とする。生徒間の教え合い・学び合い。

E高校

- 社会におけるセーフティーネットの役割としての学校を意識し、制度を導入。

I高校・J高校

- 多文化や国際性の重視を中心に、様々な理由で進学を諦めざるを得なかったような多様な背景を持つ生徒の受入れも積極的に行い、その制度や仕組みを整備。母語・継承語クラスを開講。I高校は日本人生徒も履修可。

A高校・B高校・H高校

- 少人数であっても、教育の必要性は同じであることを意識した教育の提供。

学校の特長・特色の影響

C高校・J高校

地域コミュニティや企業と連携・協力した教育活動。

→ 将来は地域社会の一員となることが期待される。

I高校

国際性・多様性を重視・土台とした教育。

- 全日制

→ 将来的に国際的な環境で活躍することが期待される。

英語能力が優先され、日本語指導は強く勧められない。

- 定時制

→ 将来的に学校のある地域社会の一員となることが重視される。

日本語を学ぶことが自明視される。

制度を実施していない学校の状況

実施しない理由

- 教員資格を有する担当者の配置
- 「個別の指導計画」の作成, 学習評価の実施



実施している学校と同様の指導や支援の実現

- 学校設定科目としての日本語の授業の提供
 - 教科の取り出し授業の実施
- + 教員の個人レベルでの指導・支援

制度実施による価値創出

C高校・E高校・I高校・J高校・K高校

- 「特別の教育課程」の対象は15名～73名（調査時点）。
- 異なる受入れ・導入の背景。
 - 学校の統合や改組がきっかけ…C高校・I高校・J高校
 - 外国人生徒等を多く受入れてきた実績…E高校・K高校



A高校・B高校・H高校

- 「特別の教育課程」の対象となるのは1～5名（調査時点）。
- 管理職がコーディネーターを兼務し、体制を整備。

リーフレット「高等学校における日本語指導と学習支援—「特別の教育課程」の制度を活用して—」

特別の教育課程 (特別支援課程) 外国人生活者に対する日本語指導と学習支援

特別支援課程 (特別支援課程) 外国人生活者に対する日本語指導と学習支援

特別の教育課程 (特別支援課程) 外国人生活者に対する日本語指導と学習支援

特別支援課程 (特別支援課程) 外国人生活者に対する日本語指導と学習支援

Q&A

Q1 日本語指導と学習支援とは何ですか？

Q2 特別の教育課程とは何ですか？

Q3 特別支援課程とは何ですか？

Q4 特別の教育課程と特別支援課程の違いは何ですか？

Q5 特別の教育課程と特別支援課程のメリットは何ですか？

Q6 特別の教育課程と特別支援課程のデメリットは何ですか？

Q7 特別の教育課程と特別支援課程の申請方法は何ですか？

Q8 特別の教育課程と特別支援課程の費用はどのくらいですか？

Q9 特別の教育課程と特別支援課程の卒業後の進路はどのくらいですか？

Q10 特別の教育課程と特別支援課程の卒業後の就職率はどのくらいですか？

特別の教育課程と特別支援課程のメリット

特別の教育課程と特別支援課程のデメリット

特別の教育課程と特別支援課程の申請方法

特別の教育課程と特別支援課程の費用

特別の教育課程と特別支援課程の卒業後の進路

特別の教育課程と特別支援課程の卒業後の就職率

Gakugei 教育大学

→ お持ち帰りコーナーに置いてあります!! 16

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構

外国人児童生徒教育推進ユニット

ウェブサイト



<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/>

リーフレット



<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project02/content2.html>

まとめ

